

熊本県地質図（10万分の1）説明書

熊本県地質図編纂委員会

長谷義隆・岩崎泰頴・豊原富士夫・渡辺一徳・田中 均

はじめに

熊本県は九州中央部に位置し、東に阿蘇火山、西に有明海や天草諸島を配して風光明媚である。また、県南半部には標高 1,500m を越える山々が連なり、九州中央山地の一部に属する。県下には地史的に古い時代のものから新しい時代のものまで分布し、火成岩類、堆積岩類、変成岩類と多様な地質から構成されている。これらは日本列島の形成過程を考える上でも重要な地層群で、古くから多くの地質学的研究があり、これまで問題であった事柄についても、次第に解決されてきている。たとえば、西南日本の内帯と外帯とを分ける中央構造線が九州ではどこを通るのかについては、大分—熊本構造線であるという説と、臼杵—八代構造線であるとする考えがあるが、熊本県下の先新第三系において、内帯の地層・岩石と外帯のそれらが接するという点で、後者が中央構造線にあたると考えられている。

熊本県全体に及ぶ地質図としては、昭和 37 年に当時の熊本大学理学部松本唯一教授を中心に、当該教室の教官および学生の調査に基づく「二十万分の一熊本県地質図」が刊行され（熊本県、1962）、その後、深田地質研究所や内外地図株式会社から 20 万分の 1 地質図が出版されている。さらに、今西（1973）により纏められた 20 万分の 1 表層地質図もある。また、熊本県は国土庁からの委託事業として土地分類基本調査を行い、県内の 5 万分の 1 表層地質図を作成した。平成 15 年、熊本県地質調査業協会は「熊本市周辺地盤図」を編纂し、熊本市を中心とする地域の 10 万分の 1 地質図を作成している。なお、通産省の地質調査所およびこれを引き継いだ独立行政法人産業技術総合研究所地質情報研究部門による 5 万分の 1 地質図の作成が熊本地域においても進められている。最近、星住ほか（2004）によって、20 万分の 1 「熊本」地質図（解説付き）が出版された。

1970 年代以降、日本列島の地質構造形成に関して、従来の地向斜論からプレートテクトニクスへと考え方、捉え方が大きく変化し、特に南部の九州中央山地の地質についての理解は、それまでとは大きく異なっている。また、各分野の研究の進展により、地層や岩

体についての情報も著しく豊富になった。このような現状に鑑み、熊本県では新たな博物館構想を構築する中で、最新情報による熊本県地質図の編纂が企画され、平成 14 年度に熊本県地質調査業協会の協力の下に熊本県地質図編纂委員会を立ち上げて 4 年間の調査を実施し、平成 18 年度に地質図の原図を完成させた。すなわち、編纂委員自身による現地調査に基づき、国土庁の土地分類基本調査の 5 万分の 1 表層地質図、通産省地質調査所・産業技術総合研究所発行の 5 万分の 1 地質図幅を参考にし、最近の関連学会の文献類および発表などによる情報を収集して、最新の情報を組み入れた「熊本県地質図（10 万分の 1）および説明書」を作成した。なお、本地質図および説明書では地質の構成に主点をおいた記述になっており、温泉、鉱石などの応用地質の項目は割愛した。

ここに完成した「熊本県地質図（10 万分の 1）」は、熊本県立博物館構想による博物館活動のひとつとして展示を目的にしたものであるが、建物としての博物館の建設に着手されていない現状でも、熊本県の地質に関する教育活動の資料として、また、行政、地質調査業界およびその関連業界における実務面での利用も充分可能である。本編纂委員会としては、熊本県の地質の基本的な情報源として、関係諸機関の有効な利用に供することができることを切に願うものである。

熊本県に関する地質の解明については、これまでに多くの方々の地道な努力や活動があり、熊本県地質図編纂委員会は「熊本県地質図（10 万分の 1）」がこれらの方々の業績に支えられたものであることを認識して、これまでに尽力された方々に心から敬意を表すものである。また、「熊本県地質図（10 万分の 1）」を作成するにあたり、熊本県地質調査業協会の全面的な支援を受けた。熊本県地質調査業協会前理事長の佐藤利吉氏および現理事長川元久幸氏をはじめ、理事各位および協会員に対し深甚なる感謝を申し上げる。また、熊本県文化企画課は地質図編纂の企画を提示され、特に担当の島田一哉氏は、編纂委員会の開催やその準備のための業務に万全を尽くされた。これにより委員会は編纂作業を円滑に進めることができたことを記して謝意を表す次第である。平成 20 年 2 月

目	次	頁	頁
	<>内の英字は地質図での表記		
はじめに		-1	
第1章 地形の概要		-7	
1. 北部		-7	
2. 南部		-8	
第2章 地質の概要		-9	
1. 中・古生界		-9	
(宇土半島・天草諸島の白亜系を除く)		-9	
(1)九州の地体構造上の特徴		-9	
(2)熊本県下の中・古生界の概略		-11	
1)三郡帯		-11	
2)領家帯		-12	
3)臼杵一八代構造線以北のその他の変成岩類		-12	
4)黒瀬川帯		-13	
5)秩父帯南帯		-14	
6)四万十帯		-14	
7)貫入岩類		-15	
2. 宇土半島・天草諸島の白亜系と古第三系		-15	
3. 新生界		-16	
(宇土半島・天草諸島の古第三系を除く)		-16	
第3章 各地質の説明		-19	
1. 西南日本内帯の中・古生界		-19	
(1)三郡帯		-19	
1)変成岩類		-19	
2)変はんれい岩 <gb>		-20	
3)超苦鉄質岩 <um>		-21	
4)花崗岩類 <gK>		-21	
5)三郡帯の地質構造		-21	
(2)領家帯		-22	
1)県中部の領家変成岩類(水越層を含む)		-23	
1)-1 領家帯北部(肥後片麻岩類- 間の谷片岩類-水越層)		-23	
1)-2 領家帯南部(竜峰山帯)		-24	
2)天草上島の領家変成岩類		-26	
3)領家帯の花崗岩類 <gK>		-26	
4)領家帯の地質構造		-26	
(3)臼杵一八代構造線以北のその他の変成岩類		-27	
1)木山変成岩類 <cs>		-27	
2)天草下島の高浜変成岩類		-28	
2)-1 構成岩石および変成作用		-28	
2)-2 縞状苦鉄質岩類		-29	
2)-3 地質構造		-29	
(4)白亜系		-30	
1)御船層群 <MI> <Mu>		-30	
2)御所浦層群 <Hh> <U>		-30	
3)姫浦層群 <HI> <Hu>		-31	
3)-1 宇土半島		-31	
3)-2 天草上島		-31	
3)-3 天草下島		-32	
4)不動岩礫岩 <Fd>		-33	
5)熊本層群 <Kum>		-33	
6)雁回山層 <Gks>		-33	
7)見嶽山層 <Mty>		-33	
2. 西南日本外帯の中・古生界(四万十帯の古第三系 を含む)		-34	
(1)黒瀬川帯		-34	
1)黒瀬川の地帯配列		-34	
1)-1 黒瀬川古期岩類の分布地帯		-34	
1)-2 黒瀬川帯堆積岩類の分布地帯		-35	
2)黒瀬川古期岩類		-36	
2)-1 はんれい岩~石英閃緑岩 <gb>		-36	
2)-2 花崗岩類 <gP>		-37	
2)-3 変成岩類		-37	
2)-4 シルル系, デボン系, 下部石炭系 <SD>		39	
2)-5 上部古生界		-39	
2)-6 上部三畳系 <mTr>		-41	
2)-7 ジュラ系 <mJ>		-42	
(2)黒瀬川帯に分布する白亜系(下部白亜系)		-45	
1)四国の物部川層群に対比される地層群		-45	
1)-1 日奈久帯の下部白亜系		-45	
1)-1-1 小原層 <Oh>		-45	
1)-1-2 三峰山層 <Mm>		-46	
1)-1-3 日奈久層 <Hn>		-46	
1)-2 宮地帯の下部白亜系		-46	
1)-2-1 宮地層 <M>		-46	

1)-2-2 砥用層 <T>	-47	2) 教良木層 (一部では志岐山層) <K>	-73
2) 領家帯の白亜系と関連性が高い “先外和泉層群”	-47	3) 一町田砂岩を含む砥石層 <Ti>	-74
2)-1 日奈久帯の下部白亜系	-47	4) 坂瀬川層 <Ss>	-74
2)-1-1 黒崎層 <Ksk>	-47	4)-1 下部および上部	-74
2)-1-2 川口層 <Kwg>	-47	4)-2 中部	-75
2)-1-3 八竜山層 <Ha>	-48	4. 天草の褶曲・断層	-75
2)-1-4 袈裟堂層 <Ksa>	-48	(1) 褶曲構造	-75
2)-1-5 今泉川層 <I>	-48	1) 一町田向斜	-75
2)-2 宮地帯の下部白亜系	-49	2) 大門向斜	-75
2)-2-1 八代層 <Y>	-49	3) 中田背斜	-75
(3) 黒瀬川帯の地質構造	-49	4) 染岳ドーム	-76
(4) 秩父帯南帯	-51	5) 天草町大江を通る背斜構造	-76
1) 秩父帯南帯の地帯配列	-52	6) 魚貫町里浦東方の背斜と向斜	-76
2) 秩父帯南帯に分布する地層	-55	7) 都呂呂から上津深江を通る背斜	-76
3) 秩父帯南帯の地質構造	-59	(2) 断層系	-76
(5) 四万十帯	-61	1) 今田断層	-76
1) 四万十帯の地帯配列	-61	2) 小松断層	-76
2) 四万十帯に分布する地層	-64	3) 大宮地断層	-76
3) 四万十帯の地質構造	-66	4) 上平断層	-76
(6) 熊本県内先第三系地質構造のまとめ	-68	5) 益田断層	-76
1) 先第三系の基本的地質構造	-68	6) 古江断層	-76
2) 主要構造帯を区分する断層	-68	7) 五和町井手河内一茶北町上津深江の断層	-77
3) 基本的構造を切る後世の断層	-69	8) 栖木町湯船原から志柿に至る断層	-77
3. 古第三系	-70	9) 亀浦瀬戸から深海湾に至る断層	-77
(1) 県北部	-70	10) 二浦町亀浦から深海町浅海に至る断層	-77
1) 銀水層 <Gi>	-70	11) 遠見岳北麓の断層	-77
2) 米ノ山層 <Koy>	-70	12) 河浦町崎津から久玉町山の浦に至る断層	-77
3) 勝立層 <Kad>	-70	13) 天草町大江の高浜変成岩と姫浦層群を隔てる 断層	-77
4) 四ツ山層 <Yy>	-70	14) 低角衝上断層	-77
5) 鉾ノ甲層 <Hk>	-70	5. 新第三系～第四系	-77
(2) 宇土半島・天草上島	-70	(1) 鮮新統上部～更新統下部	-77
1) 赤崎層 <A>	-71	1) 星原層 <Hw>	-77
2) 白岳層 <S>	-71	2) 大矢野層 <O>	-78
3) 教良木層 <K>	-71	3) 佐伊津層 <Si>	-79
4) 砥石層 <Ti>	-72	4) 佐伊津層御領凝灰岩 (大塚, 1970) <Gy>	-79
5) 坂瀬川層 <Ss>	-72	5) 下須島の下部鮮新統 (長島火山岩類) <Nv>	-79
(3) 天草下島	-72	6) 人吉層 <Hyl/Hya, Hyu>	-79
1) 福連木層-明石岬層- <Fr>	-72	7) 平国層・大野層 <HO>	-79

(2) 更新統下部	-80	1) 市房山花こう閃緑岩 <gM>	-84
1) 杖立層 <Tt>	-80	2) 九州山地中西部の小規模の火成岩類	-84
2) 府本層 <F>	-80	(3) 天草	-84
3) 諏訪原層・二見砂礫層 <SF>	-80	1) 花崗岩質岩(花崗閃緑岩,アダメロ岩) <gr>	-84
4) 湯島層 <Yus>	-80	2) 変質した流紋岩の岩脈 <ry>	-84
5) 戸馳島の更新統	-80	3) 安山岩質ないしひん岩質岩脈 <db>	-84
6) 前期更新世砂礫層 <ePl>	-81	4) 玄武岩貫入岩体 	-85
(3) 更新統中部	-81	7. 鮮新世以降の火山岩類	-85
1) 芳野層 <Ys>	-81	(1) 宮原・森地域	-85
2) 津森層 <Ts>, 合志層	-81	1) 下笠流紋岩 <Su>	-85
3) 下陳礫層・茂藤里層 <SM>	-81	2) 吉ノ本安山岩 <Yn>	-85
4) 水前寺層	-81	3) 上滴水安山岩 <Km>	-85
5) 平野層, 阿蘇-1/阿蘇-2 間堆積物	-81	4) 山甲川流紋岩類 <Yr>	-85
6) 最終間氷期の堆積物	-81	5) 耶馬溪火砕流堆積物 <Ya>	-85
6)-1 長洲層 <N>	-81	6) 亀石山・吉武山デイサイト <KY>	-85
6)-2 布田層・花房層 <FH>, 佐野層・御幸層	-81	7) 九重火山群	-86
6)-3 釜層・小串層 <KO>	-82	7)-1 柴やかた峠安山岩 <Sy>	-86
7) 中期更新世砂礫層 <mPl>	-82	7)-2 みそこぶし山安山岩 <Mk>	-86
(4) 更新統上部	-82	7)-3 コトバキ山安山岩 <Kb>	-86
1) 久木野層 <Kn>	-82	7)-4 山川岩屑なだれ堆積物 <Yk>	-86
2) 段丘堆積物 <t1,t2>	-82	7)-5 こはぎ山安山岩 <Kh>	-86
2)-1 託麻砂礫層 <t2>	-82	7)-6 一目山安山岩 <Hm>	-86
2)-2 赤田層 <t2>	-82	7)-7 湧蓋中岳安山岩 <Wn>	-86
2)-3 保田窪砂礫層 <t1>	-82	7)-8 湧蓋山安山岩 <W>	-86
2)-4 岱明層 <t1>	-82	7)-9 寺小野安山岩 <To>	-86
2)-5 その他の地域の段丘堆積物	-82	7)-10 名原東安山岩 <Nh>	-86
(5) 扇状地堆積物 <f>	-83	7)-11 宮城火砕流堆積物(九重火山) <Mg>	-86
(6) 崖錐堆積物 <ta>	-83	7)-12 下坂田火砕流堆積物(九重火山) <Ssa>	-86
(7) 完新統	-83	7)-13 沓掛山安山岩 <Kk>	-87
1) カルデラ底堆積層(阿蘇谷層,内牧層)<cd>	-83	7)-14 飯田火砕流堆積物 <Hn>	-87
2) 砂州堆積物 <d>	-83	7)-15 白丹火砕流堆積物・稲葉川泥流 <Sni>	-87
3) 海岸および山間低地堆積物 <a>	-83	(2) 阿蘇・高森地域	-87
6. 中新世の火成岩類	-83	1) 先阿蘇火山岩類	-87
(1) 県北部	-83	1)-1 高森玄武岩質凝灰角礫岩 <Tam>	-87
1) 上虎口玄武岩 <Kko>	-83	1)-2 大観望基底デイサイト <Db>	-87
2) 祖母山火山岩類 I <S1>	-84	1)-3 高城山安山岩 <Tj>	-87
3) 祖母山火山岩類 II <S2>	-84	1)-4 冠が岳-黒岳安山岩 <KK>	-87
4) 権現山(西原)玄武岩 <Gg>	-84	1)-5 阿蘇カルデラ壁輝石安山岩類 <Aca>	-87
(2) 県南部	-84	1)-6 清栄山安山岩 <Se>	-87

1)-7 高千穂野安山岩 <Tc>	-87	3)-29 米塚火山 <Kz>	-93
1)-8 兜岩安山岩 <Kai>	-87	3)-30 中岳火山古期 <Nd1>	-93
1)-9 阿蘇カルデラ壁岩脈群 <Ad>	-88	3)-31 泉川火砕流堆積物 <Iz>	-93
1)-10 荻岳流紋岩 <Og>	-88	3)-32 中岳火山新期山体 <Nd2>	-93
1)-11 坂梨流紋岩 <Sn>	-88	3)-33 中岳火山最新期火砕丘 <Nd3>	-93
1)-12 根子岳火山 <Nk>	-88	3)-34 中央火口丘火山灰 <Ac>	-94
2) 阿蘇火砕流堆積物	-88	(3) 菊池・八方ヶ岳地区	-94
2)-1 阿蘇-1-阿蘇-3 火砕流堆積物 <A13>	-88	1) 鞍岳安山岩 I <K1>	-94
2)-2 阿蘇-1/阿蘇-2 間溶岩 <A12>	-88	2) 鞍岳安山岩 II <K2>	-94
2)-3 阿蘇-4 火砕流堆積物 <A4>	-88	3) 八方ヶ岳安山岩 <Yh>	-94
3) 阿蘇火山中央火口丘群噴出物	-90	(4) 山鹿・荒尾地域	-94
3)-1 鮎婦ノ滝溶岩 <Ag>	-90	1) 日向神溶岩類 <Hyg>	-94
3)-2 栃ノ木溶岩 <Tk>	-90	2) 雄岳安山岩 <Od>	-94
3)-3 中方野溶岩 <Nho>	-90	(5) 熊本・御船地域	-94
3)-4 立野溶岩 <Tn>	-90	1) 金峰火山	-94
3)-5 長野溶岩 <Nn>	-90	1)-1 金峰火山古期噴出物 <Kbo>	-94
3)-6 本塚火山 <Hz>	-90	1)-2 金峰火山北麓岩屑堆積物 <Kd>	-94
3)-7 高野尾羽根火山 <Tob>	-92	1)-3 金峰火山中期噴出物 <Kbm>	-94
3)-8 白水火山 <Hs>	-92	1)-4 金峰火山新期噴出物 <Ki>	-94
3)-9 吉岡溶岩 <Yo>	-92	2) 船野山安山岩 <Fn>	-95
3)-10 沢津野溶岩 <Sts>	-92	3) 大峰火山 <Om>	-95
3)-11 荊迫溶岩 <Kas>	-92	4) 赤井火山 <Ai>	-95
3)-12 赤瀬溶岩 <As>	-92	(6) 宇土半島	-95
3)-13 古期小火山体 <Kos>	-92	1) 三角岳角閃石安山岩火砕岩 <Md>	-95
3)-14 鷲が峰火山 <Wa>	-92	2) 三角岳角閃石安山岩溶岩 <Ms>	-95
3)-15 檜尾岳火山 <Na>	-92	3) 飛岳角閃石安山岩火砕岩 <Hd>	-95
3)-16 丸山火山 <My>	-92	4) 大岳古期輝石安山岩溶岩 <O11>	-95
3)-17 御竈門山火山 <Oka>	-92	5) 大岳古期角閃石安山岩溶岩 <O12>	-95
3)-18 松ノ木火山 <Mn>	-92	6) 大岳新期角閃石安山岩火砕岩 <Op1>	-96
3)-19 夜峰火山 <Ym>	-92	7) 大岳新期角閃石安山岩溶岩 <O13>	-96
3)-20 烏帽子岳火山 <E>	-92	8) 大岳新期輝石安山岩火砕岩 <Op2>	-96
3)-21 草千里ヶ浜火山 <Ks>	-92	9) 大岳新期輝石安山岩溶岩 <O14>	-96
3)-22 蛇の尾火山 <J>	-93	(7) 大矢野島北部	-96
3)-23 乙ヶ瀬溶岩 <Oga>	-93	1) 飛岳火山 <Hd>	-96
3)-24 乙ヶ瀬岩屑なだれ堆積物 <Os>	-93	2) 柴尾山火山 <So>	-96
3)-25 赤水溶岩 <Am>	-93	3) 白濤火山 <St>	-97
3)-26 高岳火山 <Td>	-93	4) 串火山 <Ku>	-97
3)-27 杵島岳火山 <Kj>	-93	5) 大矢野岳火山 <Oy>	-97
3)-28 往生岳火山 <Oj>	-93	6) 高杣島ドーム <Tm>	-97

7) 野釜島ドーム <Nj>	-97	4)-1 人吉層下部層 <Hyl/Hya>	-100
8) 湯島かんらん石玄武岩溶岩 <Yub>	-97	5) 人吉南部	-100
(8) 肥薩火山区	-97	5)-1 鹿目滝安山岩 <Kme>	-101
1) 矢筈岳北麓地域	-98	5)-2 木浦山デイサイト <Kuy>	-101
1)-1 境川凝灰角礫岩 <Sg>	-98	5)-3 久七峠流紋岩 <Kys>	-101
1)-2 頭石溶結凝灰岩 <Kw>	-98	5)-4 鏡山安山岩 <Kya>	-101
1)-3 野川安山岩 <Ng>	-98	5)-5 高塚山安山岩 <Ty>	-101
1)-4 矢筈岳安山岩 <Yz>	-98	6) 大畑地域	-101
1)-5 鬼岳無斑晶安山岩 <On>	-98	6)-1 大野溪谷安山岩 <Ok>	-101
1)-6 招川内安山岩 <Mp>	-99	6)-2 大畑大野安山岩 <Oo>	-101
2) 水俣西部—津奈木—湯浦地域	-99	6)-3 禿岳デイサイト <Hg>	-101
2)-1 赤崎安山岩 <Ak>	-99	(9) 阿蘇火砕流以外の火砕流堆積物	-101
2)-2 津奈木角閃石安山岩類 <Tg>	-100	1) 小林(深田)火砕流堆積物 <KF>	-101
2)-3 白岩火砕流 <Sii>	-100	2) 加久藤火砕流堆積物 <Kkt>	-101
2)-4 湯浦角閃石安山岩 <Yu>	-100	3) 阿多火砕流堆積物 <Ata>	-102
2)-5 菓草岳安山岩 <Yd>	-100	4) 始良火砕流堆積物	
2)-6 湯浦玄武岩 <Yuu>	-100	=入戸火砕流堆積物 <AT>	-102
3) 水俣東部—芦北南部	-100	文献	-102
3)-1 肥薩洪水安山岩 <Hf>	-100	協力者	-117
3)-2 高野西安山岩 <Tnn>	-100	おわりに	-117
4) 球磨村南部	-100		

<地質図での英字表記の仕方>

熊本県地質図(10万分の1)では地層や岩体を彩色により表現しているが、類似の色もあるので、識別を明確にするために地層や岩体に記号(アルファベット表記)を付けている。記号表記の原則を以下のようにした(若干の例外がある)。

- 1) 記号はできるだけ簡略にするため、1字または2字とし、やむを得ぬ場合は3字または4字とする。
- 2) 固有名詞の付いた地層・岩体には読みの頭文字を始めに付け、2字目から小文字とする。
- 3) 下部と上部に区分されている層群では、頭文字に加え、下部に「l」、上部に「u」を付ける。
- 4) 層準が同じで、分布地域が異なるため、異なる固有名詞が付けられている地層・岩体は、両頭文字を並べて付ける。
- 5) 岩相区分による場合は小文字表記とする。
- 6) 地質時代を組み入れる場合は、岩相の小文字1字に続いて地質時代の頭文字を付ける。
- 7) 同一火山体で、活動の順序を考慮する場合は、古い方から数字1, 2, …を付ける。
- 8) 段丘については、低位を「t1」、中位を「t2」とする。

<本事業にご協力頂いた方々>

熊本大学名誉教授 田村 實氏

熊本県の地質に関する情報提供、表層地質図など多くの地域地質の共著者として

元熊本県立高校教諭 藤本雅太郎氏

特に県北部について地質情報の供与
水俣高校教諭 長峰 智氏

肥薩火山区の地質図およびその解説
熊本大学大学院地球科学専攻および理学部地球科学
科教室

修士論文・卒業論文の参照にご配慮頂いた
熊本大学教育学部地学教室

修士論文・卒業論文の参照にご配慮頂いた

おわりに

科学の進歩は日進月歩であり、常に新しい情報が加えられる。地球科学分野においても、この数十年間にプレートテクトニクスという大変革のパラダイムが定着し、今、さらなる展開が起ころうとしている。

ここに表した熊本県地質図（10万分の1）および説明書の作成にあたって、担当者はこのような動向を的確に反映すべく最大の努力を惜しなかつたが、まだまだ解決すべき課題を残してしまったように思う。この点は今後の地球科学分野の発展を期待し、その進展を踏まえた成果が後日再び実ることを念じて止まない。

この熊本県地質図（10万分の1）および説明書が、関係各位のご利用により、次なる発展の礎となれば望外の喜びである。

熊本県地質図編纂委員会：

熊本県地質調査業協会の委嘱による

構成：

長谷義隆（元熊本大学大学院自然科学研究科教授）

岩崎泰顕（熊本大学名誉教授）

豊原富士夫（熊本大学大学院自然科学研究科講師）

渡辺一徳（熊本大学教育学部教授）

田中 均（熊本大学教育学部准教授）

熊本県地質図（10万分の1）および同説明書

発行日	平成20年(2008)2月1日
定価	12,000円+税
企画	熊本県
著作・編集	熊本県地質図編纂委員会
発行	社団法人熊本県地質調査業協会 熊本市尾ノ上2丁目18番3号 TEL 096-383-5880
印刷・販売	富士マイクロ株式会社

©社団法人熊本県地質調査業協会 2008年